

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第77号(2013. 8. 1)
事務局川西地区自主防災会

地域企業が取り組む自主防災

株式会社アムロン 代表取締役社長 宮本吉朗

2004年8月30日深夜、台風16号により高松市は大雨洪水注意報・高潮警報が発令され、深夜の満潮時には高松港は過去最高潮位を記録し沿岸地域に甚大な被害が発生しました。当社も市内中心部の本社1階が浸水し、沿岸部の倉庫では鉄鋼商品が海水に浸かるという多大な被害を受けました。まさか、我々がこれほどの被害を受けるとは、前日にはまったく予想していませんでした。



そして2011年3月11日の東日本大震災、土のうやシートを用意するレベルでない防災への取り組みが必要であると痛感しました。4月、社内において防災マニュアルの作成の指示をし、管理部門を中心に素案作成に着手しました。当社の事業所は高松市、多度津町、徳島市、高知市、松山市に点在し、大半が沿岸部にあり、事業所毎の対応が要求されます。



このため、防災マニュアル素案では、①災害と被害の想定、②連絡体制、③避難場所の確認、④改善事項を事業所毎にまとめさせ、5月に社内にて発表しました。3か月後社内での防災に対する認識変化について次のようなアンケート調査を実施しました。

アンケート調査を実施しました。

- 質問 所属部署でどのような防災準備をしていますか
- 1位 避難場所・避難ルート of 決定
 - 2位 土のうやシートの準備
 - 3位 災害時の役割分担の決定
 - 4位 知らない

「知らない」が4位に驚き、継続して取り組む以外にはないとあらためて認識させられました。

2012年5月、異業種交流会のセミナーで高知大学の岡村先生の「南海トラフの巨大地震について」というお話を聞く機会がありました。「揺れの

大きさに関係なく、1分以上揺れが続いたら、報道を待たず自分の判断で避難すること。自分の命は自分で守ること」という単純明快なメッセージがあり、翌日の全社社長朝礼で岡村先生のメッセージをすぐに紹介しました。特に、発生直後に津波が襲ってくる高知、徳島の事業所にはこのメッセージを徹底するように責任者に個別に伝えました。

これ以降、災害対策だけでなく、被災後の事業継続計画（BCP）への取り組みに着手し、取引先との被災時の連携による事業継続、携帯電話網、社内メール網といった社内ネットワークの再構築、情報システムの分散保管、防災を考慮した日常備品の再構築をすすめています。まだ、着手レベルですが、企業として社員の生命を守るだけでなく、企業としてお客様に提供している機能の早期回復、継続への取り組みが必要です。

当社の経営大原則は、①社員を幸せにする会社、②お客様を幸せにする会社、③社会を幸せにする会社です。防災においては①社員を守る会社、②お客様へ機能を継続できる会社、③地域社会と連携できる会社をめざしています。このため、社内体制、設備対策、備蓄検討など、着手すべきことは沢山ありますが、社員一人一人が災害時に持ち味を活かして社会に貢献できることが最も重要で、無駄にならない取り組みと考えています。創業 65 年の人材育成の伝統を守り、今後も取り組んでまいります。

災害はいつ起きてもおかしくない、決して絵空事ではありません。経営者として、地域における企業の役割を防災においてももしっかり認識し、今後も取り組みます。

株式会社アムロン

創業 1948 年

社員数 210 名

所在地 高松市末広町 7-21

事業内容 鉄鋼製品・加工、鋼構造物工事他各種工事、建設資材
重金属汚染土壌・排水対策資材、産業機器・設備

公式サイト <http://www.amron.co.jp>



香川県シェイクアウト訓練 (県民一斉地震防災行動訓練)

香川県では以下の内容で香川県シェイクアウト訓練【Shake Out】(県民一斉地震防災行動訓練)を実施します。

シェイクアウト訓練はアメリカロサンゼルスを中心として2008年に始まった新しい形の地震防災訓練です。

日本では2012年から東京都千代田区で実施されたのを皮切りに、その後、北海道、埼玉県、千葉県等で導入され、本年も香川県をはじめ、多数の自治体で実施されています。

香川県では、このシェイクアウト訓練を日本で普及促進している「Shake Out 提国会議」と提携し、訓練を実施します。

訓練の内容は、いたってシンプルで、決められた時間に身を守る基本行動(安全行動)として、『姿勢を低く(しゃがむ)』『頭・足を保護して(机の下などに隠れる)』『そのまま揺れが収まるのを待て(じっとする)』を実施するものです。

訓練の目的は

○県民自らの身の安全を図る行動をとってもらうことによって、地震防災の必要性を改めて認識していただくこと

○県民の防災リテラシーを図り、身近な人を助けるなど地域防災力の向上に貢献できる人物を育成すること

で、訓練参加には費用も掛からず、誰でも参加できます。

訓練に参加される方はShake Outホームページ又はファックス、郵送での申し込みをお願いします。詳しくは裏面の広告をご覧ください。

1 実施日時

平成25年11月5日(火) 14時～

2 対象者

不特定多数の県民(学校、行政、一般住民、企業、団体等)

3 想定

平成25年11月5日14時に、南海トラフを震源域とする大規模な地震が発生

4 訓練参加者の募集

シェイクアウト提国会議ホームページで、参加登録を行って下さい。(個人又は団体)インターネットが使えない人のために電話、ファックスでの参加登録も可能です。

安全行動の1-2-3



- ①ドロップ:まず低く!
- ②カバー:頭を守り!
- ③ホールド・オン:動かない!

坂出工業高等学校 防災訓練についての報告

坂出市 内浜西自主防災会

日時 平成 25 年 5 月 20 日

目的 災害等における生徒の安全確保を図るため、地震と火災からの避難訓練、津波からの避難訓練を通して防災知識と対応能力を向上させる。また、消火器の使用方法を理解させ、担架による搬送訓練等によって現実の災害時に対応出来るようにする。

役割分担

- 内浜西自主防災会
- ・消火器による消火訓練
 - ・担架による搬送訓練
 - ・ロープワーク訓練
- 坂出工業高校
- ・バケツリレー訓練

訓練参加者

坂出工業高等学校、坂出市危機管理、坂出市消防署、内浜西自主防災会（5名）、宮下通自治会、西大浜南自治会自主防災会、御供所中央自治会防災会

訓練内容

- ①地震発生の放送
生徒は校内放送で出火想定場所を確認後、避難開始
- ②運動場に避難完了
- ③各訓練を科ごとにローテーションで行う
各科の学年の代表者が行う

感想

防災訓練は、実際に火災・地震が起きた時に役にたつと思いますが、防災訓練のときに、実際に火災がおきた怪我人がでましたと想定してやるのが大事だと思いますが、今回は、学校全体として真剣さが少し足りないような気がしました。

今後、高校生の若い人が防災の先頭に立ってやってほしいと思います。他の自治会の方は訓練後に、担架の事の質問などがあり熱心に取り組んでいました。

他に

四国新聞に掲載されました。

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

1、川西地区自主防災会では、このほど

大型の自家発電機 をコミュニティセンターに備えました。

この発電機の「仕様」を紹介しますと、

①形式名称	DCA-25USI(超低騒音型)
②重量	821kg
③三相交流出力	20/25KVA(定格出力)
	200/220V(定格電圧)
	57.7/65.6A(定格電流)
④单相交流出力	3KVA(定格出力)
	100/110V(定格電圧)
	30/27.3V(定格電流)
⑤エンジン	いすゞ自動車AA-4LE2 ディーゼルエンジン 形式:4サイクル水冷直列直接噴射式 総排気量:2179L 始動発電機:12V-2.0KW バッテリー:80D26R×1



◎使用用途について

- ・ライフライン全断時⇒契約先給油所へ移動、給電活動 <半日程度、給油所で活動>
- ・その後、コミュニティセンター又は小学校において給電活動を行いません。
- ・県等からの要請によって、小型発電機18台と共に他県への支援活動に従事にさせる予定です。

2、平成25年度 夜間避難訓練 を実施

7月27日(土)午後9時丸亀市災害対策本部の避難勧告発出により、訓練を開始。

総勢582名(一般:502名、要援:26名、率先避難:54名)が参加。

編集後記

今月の防災減災の輪は、株式会社アムロン宮本様、坂出市内浜西自主防災会様より原稿をお寄せいただきました。誠にありがとうございました。